

## 少子化に対応した子どもにとって望ましい教育環境の在り方について「審議のまとめ(案)」に係るパブリックコメントの実施結果

平成30年4月16日(月曜)から5月21日(月曜)までの間、少子化に対応した子どもにとって望ましい教育環境の在り方について「審議のまとめ(案)」に対するご意見を募集しました。お寄せいただいたご意見の概要とご意見に対する考え方を取りまとめましたので次のとおり公表します。

### 1 意見募集の概要

- (1) 募集期間:平成30年4月16日(月曜)から5月21日(月曜)
- (2) 閲覧場所:長野市役所のホームページ、長野市教育委員会事務局学校教育課、行政資料コーナー、支所、保健センター、幼稚園、保育所、認定こども園、認可外保育施設、こども広場の窓口
- (3) 提出方法:閲覧場所への持参、学校教育課への郵送、ファックス、Eメール、長野市ホームページ「ながの電子申請サービス」

### 2 ご意見の件数

114件(持参8件、郵送・ファックス95件、Eメール等11件) 67名

### 3 ご意見に対する考え方

対応区分	対応内容	件数(件)
I	審議のまとめ(案)を修正追加する	1
II	審議のまとめ(案)に盛り込まれており、修正しない	29
III	審議のまとめ(案)は修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする	62
IV	検討の結果、審議のまとめ(案)は修正しない	3
V	その他(質問への回答、状況説明)	19

### 4 パブリックコメント実施結果の公表

長野市教育委員会事務局学校教育課、行政資料コーナー、支所及び市役所のホームページ等で公表します。

### 5 本件に関するお問い合わせ先

長野市教育委員会事務局学校教育課小中高連携推進室  
電話:026-224-5097

## 意見総数 114件

意見の種類	意見数(件)				
	I	II	III	IV	V
	審議のまとめ(案)を修正する	審議のまとめ(案)に盛り込まれており、修正しない	審議のまとめ(案)は修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする	検討の結果、審議のまとめ(案)は修正しない	その他(質問への回答や現状説明)
1 学校や学級の規模に関する意見(34件)		9	21	3	1
2 予算や経費に関する意見(18件)			18		
3 小学校高学年期の集団での学びに関する意見(16件)		1	3		12
4 地域に関する意見(8件)		5	3		
5 教育全般に関する意見(8件)	1	3	4		
6 教員数・配置に関する意見(5件)		5			
7 通学区域の弾力化に関する意見(5件)			5		
8 教員の働き方に関する意見(4件)		4			
9 学校の統廃合に関する意見(4件)			4		
10 設備に関する意見(2件)			2		
11 PTAに関する意見(1件)		1			
12 社会情勢に関する意見(1件)					1
13 教員の意識改革に関する意見(1件)		1			
14 施設の複合化に関する意見(1件)			1		
15 部活動に関する意見(1件)			1		
16 その他の意見(5件)					5
合計	1	29	62	3	19

No.	いただいたご意見	ご意見に対する考え方
<b>I 審議のまとめ(案)を修正する</b>		
<b>5 教育全般に関する意見(1件)</b>		
(1)	<p>本年4月より「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」「認定こども園教育・保育要領」が全て改正され、保育園・幼稚園・認定こども園のいずれに通っていても、同じ幼児教育が受けられるようになった。その意味で、3才～大学までの教育は「一本線」でつながっている。教育環境を語る時、小・中・高＋年長児との連携という図式は、現行の制度に合わない。当然、別表の(矢印)の図も間違っているし、そもそも『幼保園』などという組織はどこにも存在しない。再考すべきと考える。</p>	<p>審議のまとめ(案)21ページの図につきましては、0歳から18歳まで子どもの育ちを連続的にとらえ、連続性のある教育の推進を意図したものです。</p> <p>図の「年長」の表記(矢印内)は誤解を招くため削除いたします。また、「幼保園」の表記につきましては、「幼稚園・保育所・認定こども園」と修正いたします。</p>

No.	いただいたご意見	ご意見に対する考え方
<b>Ⅱ 審議のまとめ(案)に盛り込まれており、修正しない</b>		
<b>1 学校や学級の規模に関する意見(9件)</b>		
(1)	「新たな学びの場」としているが、全ての小・中学校を統合するという大前提で、選択の幅をかってせばめているのではないか。小規模学校の利点ももっとあると思う。	検討委員会では、少人数の学校のメリットについても様々な意見が出され審議されてきました。
(2)	ゆとりをもって教育することが、どれだけ子どもたちの心を育てるかを考えるべき。小規模校の方が、縦割り活動をしやすく、全校みんな友だちのような学校にしていける。	
(3)	大規模で35人ぎゅうぎゅうの学校と野山の中で伸び伸びと学ぶ学校とどちらが子ども達にとって幸せなのか、考えてほしい。	地域により様々な教育環境があります。審議のまとめ(案)は長野市全体の子どもにとって望ましい教育環境を熟議してまとめました。
(4)	子どもの数が減るから学校や先生を減らすということかと思うが、保護者としては、子どもたちそれぞれにできるだけきめ細かく目を配ってほしい。	発達段階に応じて、きめ細かく目を配っていけるよう、教職員の意識改革を進めてまいります。
(5)	少人数学校には、少人数の良さが有る。必ずしも審議のまとめ(案)にあるような学習障害や教育の質の保障が難しいとはならない。少人数の地域でも学校を無くさないで欲しい。	少人数の学校のメリットについては、検討委員会でも様々な意見が出され審議されてきました。その上で、子どもの育ちの連続性を大事にした「多様性ある集団の中での学びが必要である」という意見と「できる限り地域に学校を残したい」という意見が同時に共有されております。
(6)	「小学校では複数の学校で」「中学校では更に大きな集団で」は、一般論としては首肯できないこともないが、少人数学級や教職員の多忙化の解消、必要な人的配置等を優先すべきだと考える。	県で定める教員数では不足する教員を市費で加配するなど、必要な人的配置は実施しております。教職員の多忙化の解消といった点については大切にしたいと考えます。
(7)	仲間とともに経験し、1つのことを創り上げたり、成し遂げたりして得られる達成感や成就感を体得することはとても重要だと思う。他との望ましい関わり方、コミュニケーション能力の獲得にもつながるので、技能的教科などは特にある程度の集団が必要であると思う。	ご指摘の点につきましては、審議のまとめ(案) 12ページ、「Ⅲ 子どもにとって望ましい教育環境とは」の中で述べております。
(8)	「地域に学校」をも大事なのは分かるが、限界があると思う。人数が少なすぎて(小・中同じメンバー)、高校へいったときのギャップについていけるか(心配)。やはりある程度の人数(1クラス15人以上)は必要だと思う。子供も少ない中でなので、考え方がかたよってしまいがちである。	ご指摘のような状況を踏まえて審議し、子どもの育ちの連続性を大事にした「多様性ある集団の中での学びが必要である」という意見が共有されております。
(9)	小2の男子が●●小学校に通っている。年々、在校生が減少しており、本年度は全校で44名、小2のクラスは7人。幼児期の沢山の吸収、成長できるこの時期、あまりにも少人数すぎる人間関係に、不安・不満足感を抱えている。体育・音楽・グループワーク・発表会・遊び…など全てにおいて、人数制限がかかったまま行っている。	

No.	いただいたご意見	ご意見に対する考え方
<b>3 小学校高学年期の集団での学びに関する意見(1件)</b>		
(1)	もっと色々な環境の中で、経験が沢山でき、多くのお友達と関わりながら小学生の高学年は過ごさせたいので、学区の変更や高学年同士の編制による学校設立など、早期に望む。あと、2～3年でこの案を実現して欲しい。	審議のまとめ(案)12ページ、「1 発達段階に応じた多様な教育環境」の中で、小学校高学年期では「集団の中での育ち」に重点を置いた教育が大切であることを提言しております。
<b>4 地域に関する意見(5件)</b>		
(1)	地域のつながりや支え合いが希薄化している今だからこそ、地域を学び、地域で学び…「地域に根ざす教育」をいっそう大事にしていきたい。地域の学校が消えていくことは、地域の衰退を加速させていくことに直結している。	検討委員会では、「できる限り地域に学校を残したい」という意見が共有されております。 審議のまとめ(案)19ページ、「2 多様な集団の中での学びを」の中で、「学校は、子どもたちが学校外の人々との関わりを強め、幅広い世代の人々と触れ合い、学べる場になることも大切にしたいものです。」と述べております。
(2)	地域に根ざした教育環境が維持していけるようお願いしたい。	また、審議のまとめ(案)18ページ、「1 発達段階に応じた連続性のある学びの場を」の中で、「幼児期の教育及び高学年以降の教育との円滑な接続を見通して、児童数が減少した場合には、体力がまだ十分でない児童の通学距離等を考慮し、地域の見守りの中に、低・中学年で構成する学びの場をつくるということも考えてはどうか。」と提言しております。
(3)	地域の学校を大切にしていける事が何よりも大切であり、地域の学校を無くす事は、地域の財産を失う事だと思う。地域の学校を大切に行政を行ってほしい。	
(4)	地域にとって子どもたちは宝である。新たな学びの場になったときに、地域から離れて子どもたちが学ぶようになるのではないかと不安になる。	
(5)	各々の学校にはその地域の色、姿が映し出され、その地域ならではの教育で子どもを育てていると考えるため、統廃合のような形で人為的に大きな集団を作ることに消極的である。	
<b>5 教育全般に関する意見(3件)</b>		
(1)	子ども一人分の費用が小規模校は多いとか、専門教科の教員がいないとかの理由で学校を統廃合すれば、一人分の費用は安くなるかもしれないが、一人一人の子どもの学びや育ちが粗末に扱われることになる。 どうしたら一人一人の子どもの学びや育ちが丁寧に保障されるかという視点で長野市の学校教育の方向を決めてほしい。	この審議のまとめ(案)は、いわゆる「学校の統廃合や規模適正化等の配置計画」の類ではありません。 第二次長野市教育振興基本計画において、次世代を担う子どもたちの「生きる力」の育成のため、子どもたち一人一人を大切にしたい教育を進めることとしております。

II 審議のまとめ(案)に盛り込まれており、修正しない

No.	いただいたご意見	ご意見に対する考え方
(2)	<p>低・中学年期(個の育ち)、高学年(集団の中での育ち)、中学生期(自立への育ち)とまとめられているが、この考え方は、「社会的な成長は遅くなってきている」との指摘を受けている今の子どもたちを4年生と5年生で区分し、高学年に教科担任制を導入するなどを想定されているようであるが、それには十分な検証が必要と考える。</p> <p>審議のまとめ(案)全体を通して、「少子化」への対応策として、学校の統廃合や小中一貫校の導入が展望されているようにさえ読み取れるが、「子ども本位」「教育的な視点」第一とした検討・検証をお願いします。</p>	<p>検討委員会では、子どもの育ちや学びの質を大切にされた発達段階に応じた豊かな育ちについて、学校は未来社会を担う最も大切な子どものためにあるという考え方の下、検討を重ねてまいりました。</p> <p>ご指摘にあるような「子ども本位」「教育的な視点」「一人一人の学び、育ち」を大切にしながら、教育環境の整備に取り組んでまいります。</p>
(3)	<p>全国学力調査をはじめとする各種学力調査により、子どもたちの学びが画一化されてきているように感じる。一人ひとりの学び、育ちを保障するための、教育条件の整備を望む。</p>	
<b>6 教員数・配置に関する意見(5件)</b>		
(1)	<p>子どもの数(クラスの数)によって教員の数を決めるのではなく、子ども一人一人に向き合うことのできる数の教員を配置していただきたい。</p>	<p>子どもたちの「生きる力」を一層確実に育成し、教育の質の向上につながる学校における働き方改革を実現するため、業務を担う教職員定数改善に必要な措置を講ずるよう、市議会から国に対し要望書を提出しております。</p> <p>市教委としても、引き続き、あらゆる機会を通じて「教職員定数」や「学級規模」の見直しについて、国へ要望してまいります。</p>
(2)	<p>必要な人的な配置も考えてほしい。</p>	
(3)	<p>一人ひとりの子どもが抱える課題が多様化し、年齢の幅も広がっており、一人の教師が抱える負担は大きくなっている。だからこそ、教師増を求める。</p>	
(4)	<p>児童減ですぐ教員減につなげず、子どもを多くの教員で支えてあげるような学校づくりを考えてほしい。</p>	
(5)	<p>小規模校に専科の先生がいなくなる危機がせまっている。小さな学校の子どもたちに音楽の楽しさ、生きる力を養う家庭科の教育を専門に学べる環境を望む。</p>	
<b>8 教員の働き方に関する意見(4件)</b>		
(1)	<p>小・中またいで授業を受けもつ教員の負担感(人員加配・部活の顧問をしない)など働かせかたを変えるべきである。</p>	<p>教職員の負担感の軽減につきましては、教職員の長時間勤務実態が看過できない状況にあり、審議のまとめ(案)22ページに、附帯意見として、「働き方改革が進められることは大事である。」と述べております。</p> <p>本市としても、県及び国の基本方針に従い、鋭意取り組んでまいります。</p>
(2)	<p>学校の先生の教材研究等にかかる時間の保障もしてほしい。</p>	
(3)	<p>多様な個性を持つ子どもたちに対応していくために、教職員の多忙化を解消し、「個と向き合う」時間とそのためゆとりを保障したい。</p>	
(4)	<p>連日遅くまで学校に電気が点いているのを見て、何時まで仕事をしているんだろうと心配になってしまう。</p>	

II 審議のまとめ(案)に盛り込まれており、修正しない

No.	いただいたご意見	ご意見に対する考え方
Ⅱ 審議のまとめ(案)に盛り込まれており、修正しない	11 PTAに関する意見(1件)	
	<p>(1) PTAの三役(特に会長職)について、仕事をしながら子育てをしている中、個人にあれだけの業務、イベント、会議の出席を求めるのはあまりにも残酷だと感じる。少子化を危惧するのであれば、PTAも少子化に対応していくべきだと思う。PTAを無くせとは言わないが、無駄をなくす努力を求める。</p>	<p>審議のまとめ(案)4ページ中段で、「少人数の学校では、何回もPTA役員等に就任しなければならない、中山間地域の学校では、校外活動に関わる保護者の経費負担が大きいなど、保護者が感じる負担感も見落とせない課題である。」と述べております。</p>
	13 教員の意識改革に関する意見(1件)	
	<p>(1) 「一人一人の教員が・・・積極的に意識改革を進めていただきたい。」という意見に賛同する。もっと重要性を認識して、もっと危機感をもってやってほしい。特に発達障害や、そのボーダーラインにいる子どもへの対応について、「個性を尊重する」方向性が違うのではないかと感じる。”教室から出て行ってしまう”→”尊重して見守る(ヘルプの教員を配置)”は違う。その子が教室から出ない工夫がされずに切り捨てていると感じる。これは一例であるが、教員の意識改革、スキルアップ(最低限の)が必要だと思う。すぐに全員のスキルアップは無理だと思うので、きちんとわかっている教員からの指導(個別のケースの)をお願いしたい。</p>	<p>審議のまとめ(案)22ページに、附帯意見として、「子どもにとって『望ましい学びの場』を築くためには、一人一人の教員が、自ら発達段階に応じた子どもの育ちを大切にされた連続性ある教育の重要性を理解するとともに、指導力の向上に努め、実践に取り組むことがとても重要になる。」と述べております。</p>



No.	いただいたご意見	ご意見に対する考え方
<b>Ⅲ 審議のまとめ(案)は修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする</b>		
<b>1 学校や学級の規模に関する意見(21件)</b>		
(1)	<p>「規模適正化」は「1学級の人数を過去のように40人に」「小学校は12学級以上、中学校は9学級以上」と大規模化する方向には反対。国が定める「教員配当基準」を少子化に合わせて現存する学校が存続できる配当基準に改正させていくことが必要なのではないか。「みんなが集まって笑顔あふれる学校を」は、こうした国、地方行政の努力が背景にあり実現されるものであり、予算を削り、その予算内での教育条件整備しか行わないような努力では、決して実現できない。</p>	<p>子どもたちの「生きる力」を一層確実に育成し、教育の質の向上につながる学校における働き方改革を実現するため、業務を担う教職員定数改善に必要な措置を講ずるよう、市議会から国に対し要望書を提出しております。</p>
(2)	<p>ぜひとも30人規模でなく、きっぱり30人学級を実現してほしい。</p>	<p>引き続き、あらゆる機会を通じて「教職員定数」や「学級規模」の見直しについて、国へ要望してまいります。</p>
(3)	<p>「少子化」に応じて「学級定数」を見直し、20人規模での全員参加の授業を展望したい。</p>	
(4)	<p>国や県の基準の枠組みに留まることなく、教育の未来を先取りした内容に半歩でも踏み出す提言を願いたい。そのためにも、日本の教育をグローバルな視点からとらえ、学級定数にしても学校規模にしても先進国並みを目指していきたい。児童憲章や子どもの権利条約の精神に沿う、子ども本位の長野市教育の実現のためご尽力頂きたい。</p>	
(5)	<p>日本の学校規模は国際的に見て過大である。WHOは「教育機関は小さくなくてはならない」とし、100人以下の規模を推奨している。</p>	
(6)	<p>国際的に見ても、日本の学校規模は大きすぎると思う。先生方の目が行き渡らないのではなか。</p>	
(7)	<p>学校規模が過大すぎるのは良くないと思う。現在、全校規模750人程度の大規模小学校にいて、過大すぎるゆえの問題にいろいろとぶつかっている。</p>	
(8)	<p>特別支援学級の定員数を8人から6人に引き下げ、ゆとりある環境にしてほしい。</p>	
(9)	<p>1クラスの人数が多すぎる。子どもたち一人一人に行き届いた教育を目指すなら、1クラスの人数の上限を見直すべき。</p>	
(10)	<p>200名規模から700名規模の学校に転任した。700名だと児童生徒から見ても先生をしっかりと認識できないし、先生の側から見ても児童生徒をしっかりと把握できない。目と目が合って先生と児童生徒が心を通わせて学び合える人数は、WHOが推奨する100人以下の学校が最も適切だと思う。</p>	
(11)	<p>WHOが基準としている小学校規模は100人。それに対する日本の現状は300人を超えている状態である。国際基準に追いついていない現状を早く打開していかないと、今後の少子化に対応した教育環境が保障されないと考える。改善を強く求める。</p>	
(12)	<p>現在の学校現場では心身ともに問題を抱える生徒が増しているため、一人一人の生徒をよく見ることが出来る環境が重要ではないかと痛感している。国際基準なみの学校環境を強く望む。</p>	



No.	いただいたご意見	ご意見に対する考え方
(13)	学級がどの子にとっても「居場所」になり、また「肯定感」を持てるようになることの大きな要因として、一人ひとりに出番のある「少人数学級」が求められている。	この審議のまとめ(案)は、いわゆる「学校の統廃合や規模適正化等の配置計画」の類ではありません。
(14)	未来を担う子どもたちのため、学校の統廃合ではなく、小規模の学校で、ゆとりある教育を進めていただきたい。	子どもにとって望ましい教育環境の在り方「発達段階に応じた多様性・連続性のある学び」について提言するものであり、それを実現するための方法は、地域により様々な形があると考えます。
(15)	児童数100人以下の小学校に勤務している。この人数ぐらいたと全校の児童・保護者に対し顔も名前もよく分かり、クラス担任に限らず関わっていくことができている、よいと思っている。	そうした点も踏まえ、これまでの審議の中で、子どもの育ちの連続性を大事にした「多様性ある集団の中での学びが必要である」という意見と「できる限り地域に学校を残したい」という意見が同時に共有されました。
(16)	特に初等科においては人との十分な関わり、自立に向けた訓練が必要。対話には15人程度が限界と感じる。少人数制の手厚い教育環境があれば、多くの人がそちらを望むと思われる。大規模校での子どもの関わりを見ていると、一番の不安悩みが”友達関係”。ずっと改善されていないので逆の方にシフトするべき。	今後は、この審議のまとめ(案)を参考に、市民の皆様が、それぞれの地域の実情に応じた「子どもにとって望ましい教育環境の在り方」について考えていただきたいと考えております。
(17)	学力競争社会ではなく、小規模だからこそ出来る、ゆとりを持ってじっくり教育する環境が大切だと思う。	
(18)	少子化だからこそ小規模の学校で、ひとりひとりにゆきとどいた教育ができると思う。統廃合で対応するようなことはせずに、今こそ少人数教育を実現できるよう検討をお願いしたい。	
(19)	学力競争ではなく、小規模の学校でゆとりを持って教育することが大切だと思う。	
(20)	様々な考えに触れることは大切だが、多すぎる情報は、考えることが困難になりかねない。より少人数の中で、人間関係を築いた上で進めていくべきだと考える。安易に複数の学級が良いとは考えない方がよいと思う。	
(21)	<p>「多様性ある集団の中での学び」の重要性は理解できるが、そのために「一つの学年に複数学級が望ましい」といった記述だけでは不十分だと思う。</p> <p>子どもを山間部の小規模校に通わせているが、十分な「多様性と社会性」が、「かつて」でなく「現在の山間部」にはある。</p> <p>多様性は学校の規模ではなく、「やり方」次第で確保できる。先生も学年・学校を越えて情報交換・切磋琢磨できるはず。</p> <p>財政面から適正規模を考えることも重要だと思うが、子どもにとってよい環境とする集団の具体的な人数とその根拠となる理由がはっきりしない。大人数いることによるいじめのリスクなどデメリットもあると思う。</p> <p>子どもにとっては、人数が少ないことのメリットの方が多いと感じている。小規模のメリットを最大限に生かした質の高い教育環境をいかに実現し、多くの子どもたちに提供できるのか、よい学校の「規模」ではなく、「内容」について、もっと戦略的に、全国から子どもたちを通わせたいと思わせる素晴らしい学校づくりに取り組んでほしい。</p>	

Ⅲ 審議のまとめ(案)は修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする

No.	いただいたご意見	ご意見に対する考え方
<b>2 予算や経費に関する意見(18件)</b>		
(1)	もっと教育予算を増やしてほしい。	教育予算の確保につきましては、県を通じて国へ要望してまいります。
(2)	教育予算の大幅増額こそ必要である。	
(3)	子どもたちがおかれている現実と、あるべき未来を見つめ市教委として県・国へ教育の充実を働きかけていただきたい。	
(4)	学校や学級の規模を小さくし職員の数を増やすこと、つまり教育予算を増額することが教育の質を高めることになる。	
(5)	教育予算を増額し、一クラスの人数を減らして、一人ひとりにしっかり手をかけることが、少子化に対応した教育に近づくことになるのではないかと。	
(6)	教育予算の増大、無償化こそが日本の未来を切り開く術であると思う。	
(7)	教育予算の増額ならびに教員数増加こそがより良い教育につながると思う。	
(8)	教育予算の増額、教員増、一学級の児童の数の減員が必要だと思う。	
(9)	教育予算を大幅に増額し、無償化するなどして安心して学べる環境を整備することが大事である。	
(10)	教育予算の増額や教育の無償化こそが少子化への対応・対策だと思う。国への教育予算の増額を働きかけていくことが必要である。	
(11)	国に、教育予算の増額を働きかけていくことが大切	
(12)	国にも教育予算の増額を働きかけていくことが重要	
(13)	教育予算の大幅増額こそ必要であり、教育の無償化が少子化への最大の対策だと思う。	

Ⅲ 審議のまとめ(案)は修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする

No.	いただいたご意見	ご意見に対する考え方
(14)	予算面での問題も多いと思うが、未来の宝である子どもたちを第一に考える環境をつくってほしい。	未曾有の人口減少、少子・高齢化の進行に伴い、税収の減少や社会保障関係費の増大などによる厳しい財政状況が懸念される中、学校は、将来を担う子どもたちのため、今後も長期にわたり維持・充実していく必要があります。学校の在り方を検討するにあたっては、教育的な視点を第一としながら、財政面からの検討も必要であると考えております。
(15)	児童・生徒に十分な学校教育を行うために必要な経費はどの程度が適正と考えるのか、現在の長野市ではそれに見合う経費を充当しているのかということを中心に経費についての考え方を示していただきたい。	
(16)	経費や予算を惜しまず、子ども達が学びやすい環境作りをお願いしたい。	
(17)	そもそも長野市は、上田市や松本市より教育にかける予算が少ないといわれている。経費の問題ではなく、教育予算の増額が必要だと思う。	
(18)	教材や施設の充実といった財政面での検討が必要不可欠である。	
<b>3 小学校高学年期の集団での学びに関する意見(3件)</b>		
(1)	小規模の小学校は1～4年生しかいなくなってしまう、6年生の姿を見て、下級生が育たなくなる。また、6年生が最上級生ではなくなり、6年生(最上級生)としての育ちが無くなってしまう。	学校の規模が小さくなり更に児童が少人数になった場合でも、地域に学校を残したいという思いから、小学校低・中学年期では、地域の人々に見守っていただきながら、幼児期より輪の広がった友達関係の中で、「個の育ち」に重きを置くことが大事ではないかと考え、体力がまだ十分でない児童の通学距離等を考慮し、地域の見守りの中に、低・中学年で構成する学びの場をつくるということも考えてはどうでしょうかと提言しているものであります。
(2)	小学校1年から6年のどの学年にも役割があることが大切である。また、1年から5年生は6年生を見て成長している。児童会についても、5、6年生がいなくなる学校では、どのようにしていくのか。	
(3)	中山間地域の小学校が1年生～4年生で成り立つのか。小学校高学年が今以上の人数で学べることはとてもいいことだと思うが、どのように実現するのか。また、中学生期はさらに大きな集団はどのように実現するのか。	
<b>4 地域に関する意見(3件)</b>		
(1)	地域を活性化させ、子どもたちの明るい未来を保障すべきだと考える。そのためには教育を受ける側のニーズを考えるべきである。	検討委員会では「できる限り地域に学校を残したい」という意見も共有されていることから、児童数が減少した場合には、児童の通学距離等を考慮し、地域の見守りの中に、低・中学年で構成する学びの場をつくることも考えてはどうかと提言いたしました。 少人数の学校のメリットや地域の特色を活かすことなどにつきましては、検討委員会でも十分に認識し、共有しております。 また、学校は未来社会を担う最も大切な子どもたちのためにあるという認識であります。 今後は、児童生徒や保護者の声を重視しつつ、家庭、地域、学校、事業所など社会全体の協働による学校づくりに努めてまいります。
(2)	地域別に固定した学区のみでなく、各学校に、地域に合った特色を持たせ、基本的に選択・転校を自由にする。特色の例:農業、外国語、スポーツ、コンピュータ、etc.(スキー場の近くならスキーなど)	
(3)	山間部の学校を残したいとはいえ、人数を増やす有効な施策がない現状のままでは自然消滅してしまう。「小規模は望ましくない」といった論調はそれを加速させるだけである。学校の存続が地域の存続にも影響し、教育行政だけの問題ではないことを認識する必要がある。	

Ⅲ 審議のまとめ(案)は修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする

No.	いただいたご意見	ご意見に対する考え方
<b>5 教育全般に関する意見(4件)</b>		
Ⅲ 審議のまとめ(案)は修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする	(1) 子どもにとって望ましい教育環境は、この資料に載っているものだけが全てでは無いと思う。子どものペースに合わせて子どもをきちんと見ながら、今の子に必要な教育をして欲しい。	子どもの成長には連続性と一人一人の個人差があるため、明確な区分はできませんが、審議のまとめ(案)14ページ、「18歳までに育てたい具体的な姿や能力・態度」(図)のような、子どもの育ちの連続性と発達段階に応じた多様な教育環境を整えることが大切ではないかと考えます。 そうした環境の中で、教員が子どものペースに合わせ、子どもにきちんとときめ細かく目を配っていくことが必要であると認識しております。
	(2) 学力格差が貧富格差によって生まれてくる事がある。どの子にも学校での学力を保障するために必要なことを進めてほしい。	貧富の差に関係なく、全ての子どもに小・中学校で適切な教育を受けられるよう努めてまいります。
	(3) いっこうに減らない不登校、不安感や孤立感に悩む子どもたち、ますます広がる学力の格差、克服されない子どもの貧困、教職員の多忙化と疲弊…等々、「少子化への対応」を考える際に、これらの課題にどう対処していくのか、その方途を示していくことが保護者・市民の願いに応えていくことになると思うが、本「まとめ」(案)には、その事への遡及が(ほとんど)ない。	第二次長野市教育振興基本計画において、次世代を担う子どもたちの「生きる力」の育成のため、子どもたち一人一人を大切にした教育を進めることとしております。
	(4) 審議のまとめ(案)では、生徒の「個の学び」については、あまり触れられていない。自分の子供を見ていると、現在の中学生の学びは、「用意周到に準備された学び」との印象を受ける。自らの興味・関心に基づき、資料等から学ぶ機会が少ないと感じる。	学年に応じた学習内容等につきましては、文部科学省の学習指導要領等により示されておりますので、審議のまとめ(案)では詳細に述べておりません。 新学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて指導改善に取り組んでまいります。
<b>7 通学区域の弾力化に関する意見(5件)</b>		
	(1) 市街地から子どもの少ない山間地の学校へ通学できる政策を考えていただきたい。自然の中で育てたい親はたくさんいると思う。	検討委員会の答申、市議会「小・中学校の在り方調査研究特別委員会」の調査結果等を踏まえて、今後の小・中学校の在り方について方向性を定めてまいります。
	(2) 信更町は5月9日に信更町の小・中学校に「小規模特認校制度導入」の要望書を教育委員会に出させていただいた。鬼無里小・中学校で導入されている。信更町では少子化のスピードを止めたいと考えている。「小規模特認校制度導入」を考えていただきたい。	
	(3) 小規模特認校がいいとは思っていない。	
	(4) 大規模校から小規模校へ、数名で良いので、負担なしで通えるようになれば良いと思う。	
	(5) 小規模校に近隣の大規模校から通えるような交通手段を確保して頂きたい。	

No.	いただいたご意見	ご意見に対する考え方
<b>9 学校の統廃合に関する意見(4件)</b>		
(1)	中山間地の統合をする前に、良さを生かしたり、子どものために何が良いかを優先に考えてほしい。	審議のまとめ(案)は、子どもにとって望ましい教育環境の在り方について述べたもので、ご指摘の学校統廃合等についてのものではありません。 ご提案・ご要望につきましては、今後の参考にしてまいります。
(2)	統廃合を促すような流れになっていくことを懸念する。	
(3)	ある程度の集団が望ましいという点も理解はできるが、統合を安易に行うのは反対。十分な審議のもと検討をお願いしたい。	
(4)	中学校を統合することは、高校へ向けてコミュニケーション能力もつくので望ましいと考える。	
<b>10 設備に関する意見(2件)</b>		
(1)	長野市立中学について、同じ長野市に税金を払っているのに、同じ中学生なので、従来の市立中学の環境も私立中学と同じように冷暖房完備等を含め、良い環境にしてほしい。	冷房につきましては、市立小・中学校の全教室への整備を検討しております。
(2)	全教室にエアコンを設置していただきたい。	
<b>14 施設の複合化に関する意見(1件)</b>		
(1)	ある程度、大きな集団での学習が望ましいとされている。現在、小学校の図工室、理科室が、子どもプラザ等に使用されているが、授業準備には使えない。子どもの安全を考えると、施錠ができる専用の施設が必要だと思う。	放課後の子どもの居場所として小学校内に設置している子どもプラザにつきましては、各校の実情に応じて行われております。 ご要望の施錠ができる専用施設については、各校と協議するなど施設整備の参考とさせていただきます。
<b>15 部活動に関する意見(1件)</b>		
(1)	学校を減らす(学校職員を減らす)以前に、大人数の利点として挙げている部活動などは社会体育の整備などで対応可能では。	「部活動を社会体育の整備などで対応する」ことにつきましては、県の定める「長野県中学生期のスポーツ活動指針」においても、生徒の社会体育活動への参加に関して触れられており、今後の課題であると認識しております。

Ⅲ 審議のまとめ(案)は修正しないが、今後の取組において検討又は参考とする



No.	いただいたご意見	ご意見に対する考え方
<b>IV 検討の結果、審議のまとめ(案)は修正しない</b>		
<b>1 学校や学級の規模に関する意見(3件)</b>		
(1)	<p>「長野市の教育環境」に示される内容は、少子化の人数推計、学校の規模、教職員の配置、部活動数、通学区域など、規模(数)を議論することが必要であるかのような展開である。「はじめに」の主張を裏付ける「長野市の教育環境」の内容にしていきたい。</p>	<p>検討委員会では、「少子人口減少社会が進展する中で、少子化に対応して子どもにとって望ましい教育環境の在り方」について審議を重ねてまいりました。</p> <p>「長野市の教育環境」の各項目につきましては、あくまで、市民の皆様は本市の人口減少、少子化の現状を認識していただく趣旨で掲載したものですので、ご理解をお願いいたします。</p>
(2)	<p>「子どもにとって望ましい教育環境とは」には、集団の規模についての記述が多数である。「いわゆる『学校の統廃合や規模適正化等の配置計画』の類ではありません」とは程遠い内容である。特に、「多様性の中で育つもの」はまさに、「規模適正」に関する内容以外のなにもものでもない。</p>	<p>「多様性の中で育つもの」につきましては、「規模適正」に関するのではなく、「好ましい人間関係をつくる力」や「様々な考えに触れ協働しながら問題を解決していく力」の重要性について審議されたものと認識しております。</p> <p>「みんなが集まって笑顔あふれる学校を」は、前章に示した発達段階に応じて大切にしたい教育環境を考えたとき、どの発達段階においても、多様性ある集団の中での学びが大切であると考えており、ご指摘のように「適正規模が全て」とは考えておりません。</p>
(3)	<p>「みんなが集まって笑顔あふれる学校を」では、もう「規模適正」のみの議論である。教育活動は「適正規模が全て」であるかのような内容で、多岐にわたる「教育活動」を無視したかのような記述である。教育行政が教育活動を「適正規模」のみでとらえる立場で、「少子化に対応した子どもにとって望ましい教育環境の在り方について」の議論を進めることができるのか。</p>	<p>「多岐にわたる教育活動」の充実に向けましても、多様性の中で学ぶことが重要であると認識しております。</p> <p>審議の中では、他市町村や県から示された規模を示す資料も扱いましたが、あくまでも参考資料であり、数値を用いて教育行政的に望ましい規模についての議論はしておりません。子どものことを第一に、教育的な視点から「好ましい人間関係をつくる力」や「様々な考えに触れ協働しながら問題を解決していく力」を育むことの重要性等について議論したものでありますので、ご理解をお願いいたします。</p>



No.	いただいたご意見	ご意見に対する考え方
<b>V その他(質問への回答や現状説明)</b>		
<b>1 学校や学級の規模に関する意見(1件)</b>		
(1)	「集団」とは何人くらいを指すのか。そして、その「集団」は、教育にどのような良い効果をもたらすのか、具体的な研究結果やデータがあれば、示していただきたい。	審議の中では、他市町村や県から示された規模を示す資料も扱いましたが、あくまでも参考資料であり、望ましい規模についての数値そのものについては議論しておりません。また、ご指摘のように集団と教育についての論文は多数ございますが、一つの論に集約されるものはないとの認識に立って、議論を進めてまいりました。
<b>3 小学校高学年期の集団での学びに関する意見(12件)</b>		
(1)	5、6年生が中学生と一緒にというのは、中学生とは差があり過ぎる事やリーダー性が育たない事、様々な問題点が予測される。	審議のまとめ(案)は、いわゆる「学校の統廃合や規模適正化等の配置計画」の類ではありません。「子どもにとって豊かな学びの場はどうあったらよいか」という点から議論したものであり、ご指摘にあるような「5、6年生の統合」や「5、6年生が中学生と一緒にになる」といったことについては議論しておりませんので、ご理解をお願いいたします。
(2)	5、6年生統合に反対	
(3)	「5、6年生の統合」には反対。小規模校は校務分掌など、負担がとて大きくなっているが、改革にもなって更に負担が大きくなる。	
(4)	統廃合を促す流れ、「5、6年統合」案のようなことには反対	
(5)	5、6年生等の統合に反対。地域の学校を存続させたい。	
(6)	複数学級化狙いの5、6年生統合は反対。	
(7)	新聞記事に出た「5、6年生統合」のようなことには反対	
(8)	小・中学校の統廃合を促すような流れになっていくことが懸念される。以前新聞記事で出た「5、6年生は統合」のようなことには、反対。高学年の子が低学年の子と関わりながら学ぶことは、とても大きく、小学校ならではの良さとなっている。	
(9)	新聞記事にあった「5、6年生統合」のようなことは、十分、地域の人や皆の意見を聞いて慎重に進めるべき。ただ教育予算を切りつめるだけの為ならするべきではない。小規模の学校でゆとりを持って教育することの良さにも目を向けてほしい。	
(10)	新聞にあった5、6年生は統合案には、反対	
(11)	新聞記事にあった「5、6年生統合」のようなことは、皆の意見等をよく聞いて慎重に進めた方がよい。小規模の学校でゆとりを持って教育することの良さにも目を向けてほしい。	
(12)	5、6年の統合という考え方に反対。小規模校では低学年の子どもたちにとって高学年の子どもたちは憧れの存在となっている。	

No.	いただいたご意見	ご意見に対する考え方
<b>12 社会情勢に関する意見(1件)</b>		
(1)	<p>「はじめに」にある、「子どもたちの生きる未来社会は変化の加速度を増し、複雑で予測困難なこれまで経験したことのない社会になると言われており」とあるが、具体的な発言者名、発言場所(書籍)など教えていただきたい。</p> <p>未来は、だれにとっても予測不可能な要素を含んでおり、それは、これまでもこれからも変わりなく、今現在が特に際立っているわけではないと考える。それゆえ、この提言でこれまでの教育条件整備を大胆に変換していく根拠にはならない。</p>	<p>平成28年12月21日に中央教育審議会から出されました「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」に、ご指摘の内容が示されています。</p> <p>一般的に答申は、審議会での審議(発言)をまとめたものであることから、「言われており」と表記したものであります。</p> <p>同答申では、「知識・情報・技術をめぐる変化の早さは加速度的となり」「社会的変化が、人間の予測を超えて進展するようになってきている」とあり、近年、こうした状況が顕著になってきていることが示されたものです。</p>
<b>16 その他の意見(5件)</b>		
(1)	<p>保育料が、認定こども園(私立)は一度支払ってから、年度末に戻ってくるとあるが、毎月その分(補助?か援助?)を差し引いてほしい。市民税169,000円以下は3人目無料だが、それ以上は6,000円引きだけって差がありすぎではないか。</p>	<p>保育料に関するご意見でありますので、事業を主管する「こども未来部保育・幼稚園課」へお伝えいたします。</p>
(2)	<p>中学生はほとんどの子が塾に行っているようだが、うちは経済的に無理。年子だし、中学の制服を用意するだけでも厳しい。</p>	<p>制服の購入等、就学支援に係る内容につきましては、就学援助の制度もございますので、市教育委員会へお問い合わせください。</p>
(3)	<p>このホームページを見ないと、これからの小中学校のことが分からないが、周知されていないため、ホームページを見ようと思う親はほとんどいないと思う。まずは周知してほしい。意見(パブコム)を下さいと、学校からおたよりがあってもいいのではないか。</p>	<p>市内の市立小・中学校に対しては、市教育委員会から、パブリックコメントに関して、保護者の皆様にお配りする学年だより等に掲載していただくよう依頼いたしました。学年だよりの発行のタイミング等により、掲載できなかった学校もありました。徹底できなかった点についてお詫びいたします。</p>
(4)	<p>私の子の利用している放課後児童クラブは18:30まで開いている。私はひとり親で、フルタイムで働いている。勤務時間は9:00~18:00。特別な働き方をしているわけではないが、定時で仕事を終えても18:30までに迎えに行けるかいけないか、ギリギリである。これでは放課後児童クラブとしての意味がない。働きながら子育てをしている親の一助となろうとする事業であれば、もう少し遅くまで子どもを預かってほしい。もっと言えば、社協のような市から助成金をもらって半官のような事業所でなく、やる気がある事業所にきちんとした対価を支払ってやってもらいたいと思う。</p>	<p>放課後子ども総合プランに関するご意見でありますので、事業を主管する「こども未来部こども政策課」へお伝えします。</p>
(5)	<p>学校任せでの説明のみで、ちゃんとした資料も説明もないままのアンケートに不満を感じる。アンケートの結果や審議だけではないと思う。オープンスクールや地域連携と審議のまとめ(案)にも記載されているように地域にもちゃんとした説明が必要だと思う。</p>	<p>ご意見にあるアンケートが、いつ、どなたを対象に、どういった機関がとったものか不明であるため、お答えできませんが、審議のまとめ(案)の「おわりに」に記載したように、今後は、児童生徒や保護者の声を重視しつつ、家庭、地域、学校、事業所など社会全体の協働により、学校づくりを進めてまいります。</p>

V  
その他(質問への回答や現状説明)